

令和 7 年度 東京都立葛飾総合高等学校 学校経営計画

校 長 決 定

A スクール・ミッション

人間尊重の精神を基盤として、心豊かに、たくましく生きる生徒を育てるために「創造」「立志」「貢献」を教育目標とし、「進取創造」「自主自律」の校訓に基づいた教育を行い、地域との連携を図りながら、生徒の総合的な学力を育み、自ら自己の資質・能力を最大限に引き出す生徒を育成します。

＊教育目標

「創造」：社会の変化に主体的に対応し、時代を切り拓いてゆく豊かな創造性と個性をもつ生徒

「立志」：自らの在り方生き方を考え、明確な目的意識をもって意欲的に挑戦する生徒

「貢献」：思いやりのある心と規範意識を身に付け、高い知性をもつ社会に貢献する生徒

＊校 訓

「進取創造」：自ら進んで物事に取り組み新しいものを初めて創り出す

「自主自律」：自ら立てた規範に従って、自ら厳しく行動する強い気持ち

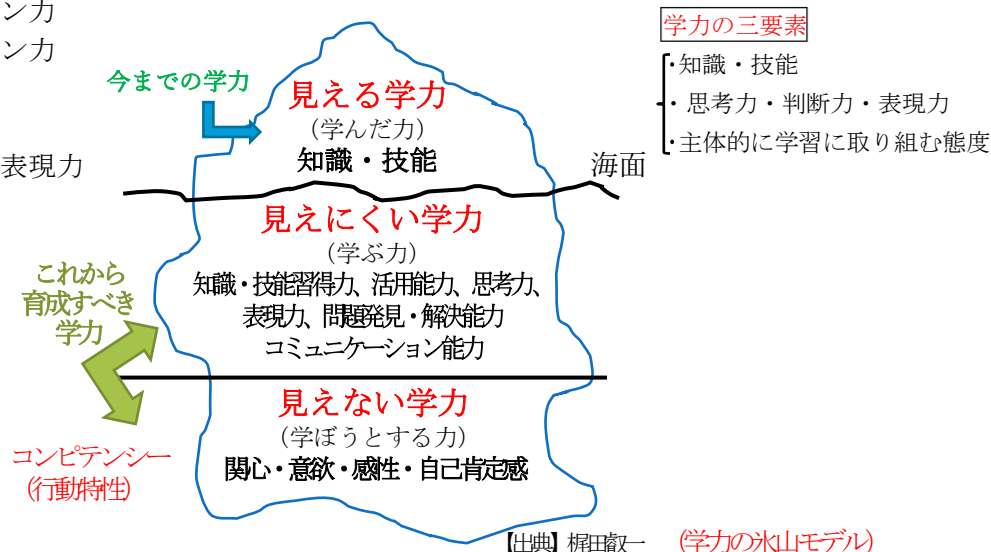
B スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

「進取創造」「自主自律」の校訓に基づいた教育を行い、授業、学校行事及び地域連携をととして【葛総力】を育成します。

＊【葛総力】とは、本校が考える総合的な学力のことであり次のような資質・能力のことをいう。

- ① コミュニケーション力
- ② プレゼンテーション力
- ③ 課題対応力
- ④ 情報収集と分析力
- ⑤ 思考力・判断力・表現力
- ⑥ 積極性・主体性
- ⑦ 協働性
- ⑧ 柔軟性・創造性
- ⑨ 計画性
- ⑩ 責任感



【出典】梶田敬一（学力の冰山モデル）

『教育における評価の理論Ⅰ 学力観・評価観の転換』（1994年）

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

【葛総力】の育成を目指して次のような教育活動を実践します。

- ア 自分を探求し自分の将来像をデザインすることを目的に、1，2，3年次のキャリアデザインを活用して、調査研究や探究活動、発表などを行います。
- イ DXハイスクールとして、充実したデジタル環境のもと、自分の強み（専門性）を高め、希望進路の実現に向けて、100を超える選択科目の中から自分だけの時間割を作成して学習します。
- ウ グローバルな教育活動に重点を置き、視野を広げ、学びを深めるために、充実した授業、海外修学旅行、国際交流、人間と社会、課題研究などの様々な活動を地域や外部機関と連携して行います。

(3) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針「期待する生徒の姿」）

本校の校訓「進取創造」「自主自律」を理解し、総合学科の特色を生かした教育活動に意欲的に取り組み、希望進路の実現をめざす、次のような生徒を期待します。

- 1 向上心があり、自らの個性や能力の伸長に強い意欲をもっている生徒
- 2 生徒会活動、委員会活動、部活動、学校行事などへ積極的に活動してきた経験があり、今後の活躍が期待できる生徒
- 3 得意とする科目で優れた能力をもち、今後もその分野へ意欲的に打ち込む生徒
- 4 ボランティア活動、地域活動などへ積極的に取り組み、今後の活動に期待できる生徒

C 令和7年度東京都立葛飾総合高等学校 学校経営戦略に基づき、以下に学校経営計画を策定する。

I 目指す学校

上記、スクール・ミッション並びに3つのスクール・ポリシーに基づき、生徒が、自分の生き方・在り方を主体的に考え、将来にわたって追究する夢を見いだし、その実現に向けた企画を実施する学校。
人生のキャリアデザインの基礎的な3年間として、葛飾総合高校での学校生活を位置づける。

(1) 総合学科の良さと総合学科の存在意義を確認できる教育の推進

平成5年2月に第14期中央教育審議会「高等学校教育の改革の推進に関する会議（第4次報告）」において、総合学科を第三の学科と提示されてから、31年経過するが、その先進的な取組は普通科へと流れ、総合学科としての良さや普通科との違いがあやふやになり、中学生から選ばれなくなってきた。今一度総合学科の良さや普通科との差別化を図るために、グラデュエーション・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシーの具現化を図る教育活動を実施する。

(2) 生徒満足度の向上とそれによる葛飾総合を卒業して良かったと言わせられる教育活動の推進

ノーチャイム・ノー放送を基本に、生徒の主体的な活動を支援する。**大学を含めた上級学校への進学を中心に**、将来のキャリアをデザインできる教育活動を推進する。

(3) 教職員の満足度の向上とそれによる葛飾総合へ異動したいと思わせる教育活動の推進

働き方改革を具現化し、教職員と生徒の物心両面の幸福を追求する。そのために、協働性と同僚性のある学校を目指し、組織体として、教職員一人一人が学校経営に参画できる学校を創り上げる。

II 中期的目標と方策

パラダイムシフト（社会の価値観、あり方の劇的な変革期）を意識した学校経営を実行に移す。開校から19年が経過し、都立高校として**選ばれる学校へと学校の新たな創造**に向けた取組を図る。これまでの過去の成功体験や前例踏襲から脱却し、STEAM教育の実践、SDGsを意識した教育活動の実現だけでなく、AI時代に対応した、これからの我が国を担う「人財育成」をするために、【葛総力】の育成やSociety5.0時代に対応したリーディングスキルの向上、**情報活用能力の育成**や、2040年以降の社会を見すえた持続可能な社会の創り手の育成を意識した、国の「第4期教育振興基本計画」（2023年6月）や「東京都教育ビジョン（第5次）」（2024年3月）、**東京都教育施策大綱（2025年3月）**の実現に向けた教育活動を実行する。

そのためには、以下の4つの教育実践に、全教職員が一丸となって取り組んでいく。

- (1) Tokyo スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）の実現を目指す。そのために、これまでの学校組織の在り方を見直し、企画調整会議や職員会議の効率化、「今までとは違う」という発想を排除し、フレキシブルな観点から教職員の意識改革を図る。
- (2) 学習指導要領に基づきカリキュラム・マネジメントの実践により全教職員が一斉授業の知識注入型教育、「正解主義」「同調圧力」から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」（パッシブからアクティブ）な授業展開を行い、自ら考え、課題解決ができるような学力を育成する。
- (3) 教育活動全体を通して、生徒が活動する場面を多く設定することで、知識・理解、暗記力を問う教育ではなく、思考力・判断力・表現力・創造力・洞察力の育成や「この本質を見抜く力」の育成、コンピテンシーベースを常に意識した教育活動を行う。
- (4) 東京都教育ビジョン（第5次）を具現化した教育活動を実行する。

- ① 基本方針 2にある「Society5.0 を切り拓くイノベーション人材を育成する教育」や基本方針 4にある「主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育」の実現のため総合学科のキーである「キャリア教育」の充実として、【葛総力】を育成すべく 3 年間にわたる一貫したキャリア教育のストーリー展開を創造する。
- ② 基本方針 3にある「グローバルに活躍する人材を育成する教育」の実現のため、海外学校間交流推進校による海外の高校との姉妹校提携と海外修学旅行をはじめとした国際交流の実施やオンライン英会話の実施と Tokyo Global Gateway (T G G) の活用による英語によるアウトプット力の育成やグローバルランゲージの学校設定科目の充実させる。
- ③ 基本方針 5にある「豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育」の実現のため、いじめの早期発見とその対応、S O S の出し方に関する教育等、いじめ防止の対策や自殺対策に資する教育等、健全育成に係る取組を推進する。
- ④ 基本方針 1 0にある「これからの教育を担う優れた教員の確保・育成」や基本方針 1 1にある「学校における働き方改革等の推進」の実現のためにリーダー研修の実施や教職員による提案型の経営参画、教職員の意識改革・職場風土改革のために働き方改革実現に向けたプロジェクトチーム (P T) を立ち上げ、教職員が心身共に健康に、やりがいを感じながら職務に取り組める環境を整備する。
- ⑤ 基本方針 1 2にある「質の高い教育を支える環境の整備」のため 1 9 年経過した校舎のメンテナンスや I C T 機器等の更新等を計画的に実施する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

テーマ タイム・パフォーマンス（時間対効果）を意識した業務の効率化に向け、① 効果的な募集対策 ② 見通しをもった教育活動によるマネジメント ③ 経営ゴールの共有化を目指した取り組みを実施する。

(1) 教育活動の目標と方策

【学校経営・組織マネジメント】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
1 学校組織マネジメントを意識した学校経営	① 校務分掌を中心とした様々な業務のシンプル化、「見える化」を図り、全教職員が内容を把握できるようにする。 ② マンパワーに頼ることなく、組織（チーム）として課題解決に向けた仕事ができるような計画的な人材育成と人材配置(人事異動)を実施する(年次任せの分掌業務から、組織的な分掌業務へと移管を図る)。 ③ データ・ファクト・ロジックに基づいた学校経営・校務分掌の推進 ④ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中）
2 働き方改革の実現	① 働き改革の具現化として、「無減代（無くす・減らす・代用する）」を意識したマネジメントの実行とプロジェクトチーム（P T）による問題点の洗い出しを図る。 ② 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇 1 5 日以上を取得する。 ③ 男性教職員の育児休暇並びに育児短時間制度取得の推進
3 Tokyo スマート・スクール・プロジェクトの実現	① 費用対効果、時間対効果を考えた教育活動を行うために、Microsoft Office365 を活用した、学校評価やアンケート集計等の実施。 ② 職員会議等の会議におけるペーパーレス化と完全な電子起案化の推進 ③ 給与明細の電子化の推進と各種文書のはんこレスの推進

4 特色化を意識した教育課程の編成	① 生徒急減期を見越した系列の見直しと特色ある学校設定科目の再編 ② 1年次「産業社会と人間」(1単位)、「人間と社会」(1単位)、2年次「産業社会と人間」(1単位)、3年次「課題研究」と一貫し総合学科としてのキャリア教育のストーリー化を創り上げる事業構築(「見える化」)の実施 ③ 全校体制による探究活動(キャリア教育)の充実 ④ グローバル人材の育成として海外派遣研修の応募、生徒が地球規模で自己の将来を展望できるよう、2,3年次において、多くの生徒が英語以外の外国語(フランス語、中国語、韓国語等)を選択できる環境の充実や学校間交流推進校として、姉妹校提携やオンラインでの交流、海外修学旅行の実現を図る。
5 人財育成	① 新規採用教員並びに若手教員を組織的に学校全体で育成を図る。 ② 主任教諭選考並びに管理職選考受験候補者を意識的に育成する。 ③ 授業力向上に向け、授業研究を実施する。 ④ 分掌主任の適正配置やリーダー研修の実施により、経営参画を意識させる。 ⑤ 問題点を掌握し、プロジェクトチーム(P T)の立ち上げにより、教職員の意識改革により経営参画を図らせる。 ⑥ 校内研修の充実を図り、服務事故防止や教職員のマネジメント力等の育成を図る。

【学習活動】

今年度の取組目標	具体的 な 方 策
6 「東京型教育モデルの実現」や学習指導要領に対応した授業展開	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験から脱却した主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実践 ② Teams や Forms 等の Office365 を活用した授業実践、及びスタディサプリの課題配信による個に応じた学習指導の実施
7 A I 時代に対応した学力の育成とキャリア教育の充実	① リーディングスキルテストの実施とすべての教科において、読解力を育成するための授業内容の再構築 ② G I G A スクール構想スクールを意識したタブレット端末等の活用、スタディサプリの動画や Teams 等を活用した授業展開の実施 ③ 総合学科としてのミッションだけではなく、社会との接続(トランジション)を意識した「見えない学力」や「見えにくい学力」(コンピテンシー)の育成(【葛総力】)の育成を図る。 ④ D X ハイスクールとしての授業展開やキャリア教育と連動した学校設定科目の整理・設定を行う。

【進路指導】

今年度の取組目標	具体的 な 方 策
8 1年次からの系統的、組織的な進路指導	① ガイダンス等の丁寧な実施により、生徒の希望する進路実現を図る。 ② 科目選択や模試等を活用し、大学進学希望者への指導の充実を図る。 ③ 資格取得を促進し、個に応じた特定分野についての意欲や能力を高める。 ④ キャリアデザイン部を中心にそのスケールメリットを生かしたキャリア教育と出口保障を一貫して実施する進路指導を行う。

【生活指導】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
9 SNSの適切な利用促進に関する指導の徹底	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNSルール」の徹底を図る。
10 体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底	① いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施するとともに、特に部活動において顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を根絶する体制を構築する。 ② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。

【特別活動・部活動】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
11 ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事を通した生徒の主体性の育成	① 担当教員が一方的に指示を出すのではなく、特別活動や部活動を通じて生徒が自ら課題を見つけ自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志決定により問題をよりよく解決していけるよう支援する。 ② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質の確保と行事終了後は速やかに学習中心の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。 ③ 特別活動終了後は、必ずリフレクション（振り返り）を行うとともに、Forms等の活用によりアンケートを実施し速やかに次年度に向けた反省点を見出していく。
12 部活動を通した健全育成	① 「部活動に関する活動方針」や文化部・運動部活動ガイドラインに基づき、全部活動が週二日以上完全休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果を上げる合理的な活動内容や活動方法等を工夫することで、自宅学習の時間を確保する。 ② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方を意識した指導を実施する。 ③ 部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。 ④ 教職員の加重負担とならぬように、部活動支援員の活用と部活動の今後のあり方を働き方改革の面から検討する。
13 「Tokyo Active Plan for students」を踏まえた体力向上	① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。 ② 健康増進と生涯スポーツに親しむ姿勢を育成する。

【安心・安全な環境作り】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
14 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成	① 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助の精神を培う。 ② 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。 ③ 発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。 ④ スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。

1 5 危機管理の徹底	① アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、エピペン®やAED演習等、危機管理に努める。 ② 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、セーフティー教室の一貫として、薬物乱用防止や自殺防止対策として、SOSの出し方に関する教育を推進する。 ③ 学校事故の未然防止(リスク・マネジメント)と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万が一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制により、被害を最小限にとどめる。 ④ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待が予想される生徒の安全を確保する。
1 6 保護者との良好な「顔の見える」関係づくり	① 保護者が安心して学校教育への参画できるよう、保護者会を中心とした情報の共有化を図る。 ② 保護者と学校が、生徒の希望進路実現のために3年次における三者面談の全員実施 ③ 学校評価による保護者の意向の把握

【募集・広報活動】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
1 7 費用対効果のある組織的募集活動の充実	① 学校ホームページ以外にもInstagram (Instagram) やスレッド (Threads) といったSNSを通じて本校の特色やイメージを提示する等、中学生目線にたった募集活動を実施する。 ② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、案内会だけでなく、学習塾等の出張説明会に積極的に参加する等広報活動を実施する。 ③ 私立高校を意識した学校案内の刷新、YouTube等の動画の活用等、イメージ戦略を整える。 ④ 学校説明会や学校見学会の広報活動は、総務部だけの一部の教職員が行うのではなく、全校体制で、学校行事として経営企画室職員を含めた全教職員が必ず関わりをもつ。
1 8 在校生・保護者に向けた広報活動	① 学校情報を適宜ホームページ、Instagramに掲載等、広報活動を充実させる。 ② カウンター機能を重視し、アクセス件数を把握することで、中学生や保護者の動向を探る。 ③ 在校生やその保護者向けに、適切な内容を随時掲載する。

【経営企画室体制】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策
1 9 学校経営への参画	① 学校経営計画に基づき、学校経営に参画し、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。 ② 教員と企画室職員が協働し、積極的な経営参画を図る。 ③ 働き方改革の一環として、「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ICTを最大限活用した業務遂行をする。 ④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。 ⑤ 業務全般を理解するとともに、担当部署のスキルアップを図ると同時に課題意識を常にもち、組織的に業務改善を図っていく。 ⑥ 学校行事や保護者会活動等への積極的な参画。

20 質の高い教育環境の整備（適切な予算執行）	① 生徒関係だけでなく、教職員の福利厚生面を意識した予算編成を行う。 ② 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。 ③ 施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。 ④ 同じ敷地・校舎内にある本所工科高校と一体化した予算編成並びに執行を行う。
-------------------------	---

（２） 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標
生徒・保護者満足度	学校評価アンケートとして、生徒の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u> 保護者の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u>
キャリア教育の充実	① 進路決定率 <u>95%以上</u> ② 4年生大学進学者数 <u>100名</u> ③ 各種資格・検定試験合格者数 <u>50名</u>
募集対策の充実	① 学校見学会・説明会の参加者 <u>1,500名</u> ② 応募倍率（推薦選抜） <u>2.20倍</u> （学力選抜） <u>1.25倍</u> ③ ホームページの1日当たりのアクセス数 <u>1,000回</u> ④ <u>Instagram、Threads</u> 、ホームページの更新回数 <u>合計200回</u>
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 <u>100%</u> ② 校内 Wi-Fi を活用した ICT による全教職員による授業実践 <u>100%</u> ③ 全教職員による Office365 Teams の活用実践 <u>100%</u> ④ 電子起案率 <u>100%</u> ⑤ 給与明細の電子化率 <u>100%</u>
働き方改革の実現	① 教職員の夏休消化率 <u>100%</u> ② 教職員の年次有給休暇15日以上取得率 <u>100%</u> ③ 各月の残業時間80時間超の教職員数 <u>0名</u> ④ 男性教職員の育児休暇取得及び育児短時間制度取得者数 <u>1名以上</u> ⑤ 全教職員のテレワーク取得率 <u>100%</u>
教育環境の整備	① トイレの洋式化率 <u>100%</u>
安全管理（リスク管理）の徹底	① 自転車通勤の教員の自転車ヘルメット着用率 <u>100%</u> ② 自転車通学の生徒の自転車ヘルメット着用率 <u>100%</u>